

ドイツでスポーツ交流

春日井 少年団報告「指導法 参考に」

今年の夏休みにドイツでスポーツ交流に臨んだ県内のスポーツ少年団員の報告会が十八日夕、春日井市鳥居松町二のレディヤンかすがいで開かれた。保護者やスポーツ少年団関係者らが団員たちの学びや気付きに耳を傾けた。

交流は、日本スポーツ少年団が主催する「日独スポーツ少年団同時交流」の一環。全国から百二十五人が十八日間の日程でドイツを

訪れ、スポーツを通して両国の文化を理解し合った。東海地方から参加した高校二年生から大学三年生までの計八人は、引率役を務めた春日井市スポーツ少年団の長江勝郎本部長（六〇）とともにベルリンやフランクフルトを訪れた。

報告会では、長江さんが

ホームステイや射撃、テコンドーなどを体験しながら文化の違いを学んだことを紹介。参加した愛知教育大一年の鈴木昂也さん（一七）と長久手高校二年の赤塚琳さん（一七）、天白高校二年の鈴木隆弘さん（一七）は「とりあえずやってみようという指導法が参考になった」（言葉で伝えられず）身ぶり手ぶりもあったが、交流できて良かった」などと振り返った。

長江さんは、中学生になると団員が減少する傾向を挙げ、「参加したみんなが指導し、少年団の魅力を伝えてほしい」と話した。

（丸山耀平）



ドイツでの交流を報告する赤塚さん（右）と鈴木隆弘さん（中）、鈴木昂也さん（左）春日井市のレディヤンかすがいで